

現代の 府営水道は 「大阪の水屋」です。

上水道ができるまで、井戸水の水質が悪いところでは、大半の家庭が水屋と呼ばれる水売りから、水を買っていました。水屋の水源は淀川などの川水。なかでも淀川は、良質な水として好まれていたようです。

大阪府営水道は、まさに現代の水屋。十分な水源を確保できない府内の41市町村へ、淀川の水を、安全でおいしい高度浄水処理水につくりかえて、お届けしています。



24時間監視システムで水質管理

淀川の水がそのまま暮らしの水として使えた頃と、今は違います。

近年のさまざまな水質問題に対応できるよう、大阪府営水道では、厳しい目で水質管理・監視を行い、安全でより良質な水「高度浄水処理水」をお届けしています。

原水の監視

原水つまり淀川の水質は、取水場に設置した「コイセンサー」や「ゆうきセンサー」等の装置で監視しています。「コイセンサー」

は、鯉の行動を観察して有害物質を早期に感知できる装置。「ゆうきセンサー」は1時間ごと有害物質23成分を自動測定する装置です。



浄水場

高度浄水処理水の製造の各過程で、飲料水に適するきれいな水がつくられているが、常に管理を行っています。

送水

浄水場から各市町村に送水する間は、ポンプ場など府内10カ所に水質モニターを設置し、連続監視をしています。

各市町村でも、毎日水質を検査。府営水道は、各市町村と協力体制をとって、安全で良質な水をお届けしています。